

令和6年度 浜松医科大学数理データサイエンスプログラム自己評価

令和7年5月13日

次世代創造医工情報教育センター運営委員会

評価の視点	自己評価
プログラムの履修・修得状況	医学科においては「データサイエンス」「数理科学Ⅰ」、看護学科では「保健統計学」が本プログラムを構成する科目となっている。全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。 プログラムの修了状況は医学科110人/110人、看護学科67人/67人であり、全ての学生が修了している。
学修成果	授業評価アンケートの「学習目標の達成」に関する項目では、5点満点中、「データサイエンス」が4.50、「数理科学Ⅰ」が4.68、「保健統計学」が3.49という結果であった。中でも「保健統計学」は、他の科目と比較して低い評価にとどまっており、令和5年度の4.10からも大きくポイントを下げている（参考：令和5年度「データサイエンス」4.18、「数理科学Ⅰ」4.46）。この結果を踏まえ、「保健統計学」における学習目標達成の支援や講義内容の見直しが今後の課題となる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「授業の満足度」および「授業内容の理解」に関する評価では、「データサイエンス」および「数理科学Ⅰ」はいずれも5点満点中4点以上と良好な結果が得られている。一方で、「保健統計学」はいずれの項目も3点台と、他の科目と比較して評価がやや低くなっている。このため、次年度以降の課題として、講義内容の改善に取り組んでいく予定である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムを構成する全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。 また、学生の授業評価アンケート結果を次年度以降の授業内容の参考として、後輩等他の学生が受講しやすい授業としている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。 また、当プログラムへの取組について、次世代創造医工情報教育センターのHPで学生に周知している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	卒業生は医療業務に携わる者がほとんどであり、本学附属病院所属の現場の医師・看護師の意見を反映させた、医療現場を踏まえたプログラムとしている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	医療現場における数理・データサイエンス・AI活用の重要性を授業で周知するとともに、最先端の事例をとりあげて学生の興味を引く講義内容となるよう工夫している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	動画教材を多数活用し、数理・データサイエンス・AI教育の基本部分の補足となるよう考慮している。また、授業評価アンケートを分析し、学生の理解が不十分であった部分については、次年度以降の課題として講義内容の改善を実施していく。